

令和5年度 第1回市立公民館運営審議会 会議録

- ・日 時 令和5年7月26日（水）午前9時30分～午前11時25分
- ・場 所 市民交流プラザふくちやま 3-1、3-2会議室
- ・参加者 福知山市立公民館運営審議会委員16名
福知山市教育委員会教育長
事務局：中央公民館長、各地域公民館長 中央公民館次長補佐
- ・傍聴者 なし

○開会

挨拶 福知山市教育委員会教育長

○議事

- 1 審議会について（報告） 別添資料P2～4により事務局説明

- 2 令和5年度市立公民館の事業等について
 - ・令和5年度市立公民館の活動の重点（別添資料P5）確認
 - ・令和5年度事業取組の重点について、事業の概要及び特徴的な事業等について各公民館長より説明（別添資料P6～P15）

- 3 その他
特記事項無し

○閉会 副委員長挨拶

質疑等

(委員) 今後、リニューアルオープンする日新地域公民館等などについて、図書館という位置づけはあるのか。また、一般公開の考えはあるのか。

(公民館) 日新地域公民館図書館としては、以前に閉鎖しており、リニューアル後は図書館という名称ではなく、スタディルーム(学習ルーム)という名称に変わる。図書については2000冊程度になる。スタディルームを幼児用スペース、小学生学習スペース、中高生学習スペースという形で分ける。一般公開については考えていないが、開館後は自由に見に来ていただける。リニューアル後の貸館開始等については、今後、コミセンだよりでお知らせしていく予定である。

(委員) 先日、地区公民館の館長・主事会があった中で、出てきた課題というのは、人材不足、やはり地区公民館はボランティアのため、なかなか担い手が見つからないということ。また、コロナの関係で事業もできないという中で、これからは地区公民館と地域公民館との交流・連携が非常に重要であるという意見が出た。地域公民館だけ発展しても福知山市の生涯学習は伸びていかない。そのため、お互いに連携していく必要があり、地域公民館の館長と地区公民館の代表で協議する場を設けていただきたい。また、他のブロックは地域公民館があるので、色々と連携されているが、南陵ブロックには地域公民館がなく連携ができない状況である。本日の資料(4ページ)に中央公民館を南陵ブロックの地域公民館と位置づけられているため、そのように理解させていただきたいと同時に、今後は南陵ブロックの地域公民館として中央公民館と惇明公民館とで事業連携をしていければと思う。

(公民館) 市としても地区公民館の館長・主事会の中で課題が共有化されたと認識している。地区公民館の運営については、過疎化や高齢化により地域の担い手不足が重くのしかかっており、残念ながら休館している公民館もある。そういったところをどのように補うのかということで地域公民館との連携を図っていかねばならない。具体的には地区公民館に出向いて講座を実施したり、色々な行事を連携して行うなど今後も展開していかねばならないと考えている。これまでできていたことができなくなっているということであれば、できるような方法をこれから抜本的に考えていく時期にきていると思う。また、中央公民館のところに南陵ブロックの地域公民館をとということをお話いただいた。各地域に不公平感があってはならないということもあり、位置づけ的には惇明、昭和には地域公民館がないということで、中央公民館を位置づけて、色々な講座や行事を連携して行っていきたいと考えている。また、各地域公民館から、どのような形で地区公民館との連携を図っているのか、有用な事例について共有を図りたいと思う。

(公民館) 夜久野では夜久野ブロック公民館連絡会議を年に数回、地域公民館と3つの地区公民館が集まり会議を開催している。年度初めには、各館の今年度の事業計画を紹介するなど地区公民館の間で交流を図っている。今年度は地区公民館3館が力を合わせて新しいことにチャレンジしようということで取り組まれている。3地区館でたびたび集まり協議されているが、地域公民館は関係団体とのコーディネート役等の形で支援している。

(公民館) 成和地域公民館の場合は、4館合同研修会として、毎年、4館の地区公民館が集まって研修会をしている。情報の共有や今後のまちづくりについて研修を行っている。

(公民館) 北陵地域は北陵地域振興協議会を立ち上げて、自治会長と民生委員、地域・地区公民館館長、農業委員関係者で打ち合わせ等を行っている。今の課題は主に福祉関係になるが、今後の地域をどのようにしていくのかということについて話し合っている。

(公民館) 六人部地域には、3つの地区公民館がある。地区公民館と地域公民館が合同でコミセンまつりを開催している。それぞれで役割分担をいただいている。地区公民館だけではなく、民児協や防犯推進委員会、地区内にある色々な団体に協力いただくことで、コミセンまつりが開催できていると感じている。

(公民館) 三和にはこれまで地区公民館が3館あったが、細見地区公民館は令和3年から休館されている。その中で菟原地区公民館や川合地区公民館には、それぞれ課題があり、人材不足ということが非常に大きな問題だと感じている。また、地区公民館と地域公民館が連携という部分も非常に重要であると思う。公民館の役を引き受けると、色々な役が割り当てられることになり、そのことが負担となっていると思う。これについては、公民館だけの問題ではなく、もう少し違うアプローチで問題を解決する方法がないかということも考えていかないといけないと思っている。

(委員) 六人部地域公民館から運営協議会の組織の見直しを他団体との連携の中で考えていきたいという説明があった。組織の見直しについて具体的にどのように進めているのかを教えてほしい。

(公民館) 六人部地域には人権教育推進委員会があり、非常に熱心に活動されている。

他の地域公民館では人権推進委員会が運営協議会と統合される形で継続して活動されているところもあると聞いている。地域の中でも人権教育推進委員会はないのではないかという声もある一方で継続しないといけないという声もある。今の状況では、運営協議会で行っている事業と人権教育推進委員会で行っている事業がほぼ同じことをやっている。そこをもう少し整理すれば、役員の負担が少し軽くなるのではと思う。それぞれ色々な意見があるので、今後も協議を進めていく必要があることを運営協議会の役員の中で共通理解を図っているところである。

(委員) 日新地域には地区公民館が4館あり、現在、自治会や公民館に入らない方が増えており、自治会費や公民館費がもらえない、公民館からのお知らせが届かないという状況が生まれている。地域住民は8000人以上いるものの高齢化が進んでいる。そのような中で本当に地域の交流ができるのか、公民館活動や自治会活動が維持していけるのかという問題を抱えている。そのような経験が地域公民館にあれば、教えていただき今後役に立てていきたい。

(公民館) 桃映地域の場合は、庵我地区と大正地区と2つの公民館の館長や主事に運営協議会の役員として入っていただいております、そこに自治会の代表者が入って、年間6回、事業を合わせると十何回、地区の役員とお出合いして話したり、事業についてお願いをしたりしている。その場では、各地区公民館の様子を伝えていただいたり、公民館の運営の実態を聞いたりと共有を図っているが、地区公民館から課題を出していただくという場があんまりないのが現状である。その理由としては、庵我地区と大正地区とそれぞれの地区実態、生活実態が違う。庵我地区は農村を抱えており、大正地区は市街地である、それぞれの地区公民館から課題を出していただくと地域公民館も新たなまちづくりやむらづくりに一歩進んでいける部分があると思う。どんどんと地区からの課題を出していただくと対応しやすくなる。桃映地域でも自治会に入らない方はたくさんいる。先ほどから話に出ている人材不足であるとか、それをテーマに活動はしていくつもりではあるが、あくまでも地域公民館が地区のニーズに合っているのか確かでない部分もあるため、地区の方からこういうことはできないかというような話題を提起していただくと、新たな地域公民館としての使命が認識できるため、今後お願いしたいと思う。

(公民館) 先週末に令和5年度福知山市施策レビューが開催された。市の総合計画の中身について、実施状況を市民の皆さんと外部委員と一緒に点検するものである。そこで、地域づくりやまちづくりの担い手をどうするのかという議論があった。今後、その課題に向き合っていないと市が目指す暮らしやすい福知山市をどう

作っていくのかというところに繋がってこない。大きな課題として市も受け止めており、それに対する答えということも少しずつ見える形で表せていかなければならないと思う。

(公民館) 夜久野公民館では、2年に1回、高齢者いきいき大会を開催している。老人クラブ夜久野支部の方々と共催しており、大会の司会進行やあいさつなど運営を主に高齢者の方が行っている。高齢者の方々が自分たちの力で200人規模の事業を成功させたという手ごたえや喜びがこれからの色々なことにつながっていると感じている。

(委員) 昨年から午前中開館を開始されて大変ご苦勞をかけている。朝からの開館になったということで、館長、主事以外に非常勤の人員を増やして対応されている。午前中開館にあたり1人の勤務時間が長くなり6時間を超える勤務がたくさん出てきていると思う。6時間を超えると法律上は休憩を与えなくては行けないが、人員が少ない中で、昼休みも公民館は開けておかなければならず、昼休みに食事をしながら、電話対応や窓口対応などを行っている状況があると思うが、それは法律上休憩とはいわない。今後、働きやすい職場環境の整備をお願いしたい。

(公民館) 令和4年度より利用者の利便性を高めていきたいという意向で、午前中開館を実施している。長時間勤務になることに伴い、職員の数を増やして対応している。しっかりと休憩が取れる体制については、人員で補填するのか窓口を一旦閉めさせていただくとか、色んな方法があると思うので、現状の部分と照らし今後の課題として、職員が働きやすい職場になるように、また市民の皆さんも利用してもらいやすいような形の体制をとっていきたい。午前中開館が始まって間もないため、課題を1つずつ整理していきたいと考えている。

(委員) 講座の中には、おそらく小・中学生が参加しているものもたくさんあるのではと思う。子どもたちの参加を学校の方から呼び掛けることが保護者も含めてできるのではと考えているため、それぞれの講座等事業にどれぐらい小・中学生の参加があったかについて、学校へフィードバックしていただきたい。また、今後は教職員にも講座等事業の内容を理解したりあるいは自分自身が参加したりということで、更に公民館の事業を理解して積極的に地域に持ち帰るという姿も求めていきたいと思う。